

女性医師の窓

女性医師検討委員会の活動状況

女性医師検討委員会
委員長 辻川 弘子

この度、石川医報に「女性医師の窓」のコーナーを設けていただき、女性医部の活動状況を定期的に掲載することになり、まず私が投稿することになりました。本年4月に、石川県医師会に女性医師検討委員会が発足いたしました。委員会は県医師会理事7名と他に5名の女性医師に参加していただき12名で構成されています。そして、「女性医師をめぐる諸問題と対策」という小森会長よりの諮問に対し、平成18年度、19年度にわたり、検討していくことになりました。

まず8月に「女性医師勤務に関わるアンケート」を県内病院107施設に対し実施し、77施設より回答をいただくことができました。アンケートの内容は、産休・育児休暇の取得の有無、保育施設の有無、24時間保育施行の有無、病児保育施設の有無、ワークシェアリング・フレックスタイム制の導入の有無、女性医師の復職時の再教育支援が可能かどうか、などでした。24時間保育・病児保育に関しては後に述べさせていただきますが、スペース及び運営資金に問題があり、なかなか難しいようです。再教育支援に関しては協力していただける施設が多く、これらの施設とネットワークを構築し、専門臨床研修が可能となるよう検討していきたいと考えています。

また、9月に金沢市医師会の協力により、女性医師の現状を把握するために女性医師を対象にアンケートを実施いたしました。石川県の女性医師数は397人で今回アンケートに協力いただいたのは276人でした。回答をいただいた方で休業・休職されているのは11人で、たいていの方が復職を考えていました。そして、このアンケートの結果、主に女性医師の方が希望されていることは、勤務制度の改善・育児支援・学会参加が可能な状況の設定などでした。勤務制度の改善に関しては、ワークシェアリング・フレックスタイム制の導入などをすでに施行している施設と今後導入が可能である施設を合わせると50施設程度であり、今後多くの病院で受け入れていただけるよう講演会などを開催して、女性医師問題に対する意識を高めていく予定です。しかし、勤務制度の改善により、男性医師の負担が多くならないように、むしろ負担が軽減できるようにしなければなりません。また学会参加に関しては、日本眼科学会、日本外科学会、日本産婦人科学会、日本小児科学会、日本小児神経学会、日本腎臓学会、日本内科学会、日本医学会総会等で、学会会場内や近辺に保育室が設置されるようになりました。

次に、育児支援に関してですが、現在、女性医師が利用できる病児保育施設は、県内に約5施設あり、各施設における定員は4～6人で今後の女性医師の増加に対応できない状況です。平成18年10月31日厚生労働省医政局長より各都道府県知事に「医師に対する出産・育児等と診療との両立の支援について」通達がありました。この通達により、女性医師問題に対する意識が高まることを期待し、県医師会として、24時間保育・病児保育施設の増設を各医療機関と石川県健康福祉部に協力をいただき進めていく予定です。また、県医師会に育児支援の窓口を設け、病児保育施設・ベビーシッターの紹介などを行い、女性医師の皆さんに情報を提供し、育児サポートを行えるように、早急に取り組む予定です。更に、女性医師バンクの創設も検討中です。

今後とも女性医師支援事業に、皆様方のご協力をいただけますようお願い申し上げます。また、ご意見・ご要望がありましたら、下記のアドレスにメールをお願いいたします。

E-mail : ishikai-soumu@ishikawa.med.or.jp